

2017年
 第777号

12月

TOPICS

- 平成 29 年度動物慰霊祭
- 「医療安全推進週間」について
- 第 90 回温文会開催報告
- 河田町餅つき大会参加
- 第 12 回臨床ストレス応答学会大会開催報告
- ダイバーシティ講演会「経営管理・組織マネジメント」開催報告
- 秋期セミナー「スタッフを育てるリーダーシップ」～ティーチングとコーチングの使い分け～開催報告
- 診療支援部門連絡網（夜間・休日版）情報伝達訓練実施報告
- 東京防災救急協会より表彰状授与
- インパクトファクターの話
- 第 5 回学内研究交流セミナーのお知らせ
- 季節の健康レシピ

大学からのお知らせ

- 学内年賀交歓会のお知らせ
- 今月から『大学ニュース』がスマートフォンでご覧いただけます

学術振興

- 研究助成の採用決定

定例会議

- | | |
|------------|-------------|
| ■ 理事会 | ■ 評議員会 |
| ■ 医学部教授会 | ■ 看護学部教授会 |
| ■ 医学研究科委員会 | ■ 看護学研究科委員会 |

就任のあいさつ

- 医学部

ARCHIVE

- | | |
|-----------------|-------------|
| ■ 卒業臨床研修センターだより | ■ 社会支援部情報 |
| ■ 医療安全だより | ■ 看護部だより |
| ■ 募金状況 | ■ 今月の写真コーナー |
| ■ 広報室からのお知らせ | ■ 編集後記 |

TOPICS

第 12 回臨床ストレス応答学会大会開催報告

病理学（第一） 教授・調座主任 柴田亮行

11月4～5日、本学河田町キャンパス（臨床講堂）において、第12回臨床ストレス応答学会大会が開催されました。本学会は1990年代、熟ショック応答に関心を抱く複数の大学と研究所の研究者たちが定期的に集會を無していたストレス蛋白研究会を母体とし、12年前に学会に昇格したものです。



研究会の立ち上げには、総合診療科の教授の野村馨先生も関わっており、創成期の会場に使われた臨床講堂に再び足を踏み入れた古峯の先生方から昔を懐かしむ声も聞かれました。生体を脅かすストレスに対して、生体側の防御機構がときとして病気を惹き起こすことがあります。ストレス応答の異常により起こる病態といえば、熟ショック応答の過不足による細胞破壊、種々の病原体や物質に対するアレルギー、発癌などがよく引き合いに出されます。こうした生体側のストレス応答の分子メカニズムを明らかにすることは、新規治療法の開発に繋がるものと期待されています。

現在、本学会を構成するメンバーは医師薬農工理学部系出身者を中心として多岐にわたっており、小規模ながら年に一度の大会には全国から意欲に満ち溢れた若手からベテランまでの多様な研究者が集結し、発表のみならず熱い質疑応答を繰り返します。我々が常日頃参加する医学系の学会や研究会では、狭い専門領域の研究者のみが集まるという事情も手伝って、

となく閉鎖的で曇々巡りの状況に陥りがちです。一方、本学会は非常に学際的な性格をもっているため、素朴な疑問を講うための鋭い突っ込みやそれに対する反論によって沸き起こるインパクトとインスピレーションが参加者を大いに刺激します。



今回は、シンポジウム1「神経変性疾患における異常蛋白質の毒性、蓄積および伝播」ならびにシンポジウム2「数週間ストレスに起因する疾病病態」というこれまでにない斬新な切り口の目玉企画を用意しました。各研究領域のトップリーダーから最新知見が紹介され、新鮮な話題をもとに活発な意見交換がなされました。ランチョンセミナーでは、岐阜大学医学部神経内科学の山下享良先生をお招きし「脳梗塞に対するトランスレーショナルリサーチ - アカデミア発動の課題 -」について話していただきました。特別講演では、カリフォルニア大学サンディエゴ校教授で脳腫瘍分子病理学の世界的権威であるポール・ミシェル先生をお招きし、微小環境ストレスに呼応して腫瘍細胞が治療抵抗性を獲得してゆく詳細なメカニズムについてお話しいただきました。

また、本学会は毎年若手研究奨励賞を設けていますが、今回は本学からも2名の医学部生を含む数名がエントリーしました。そして、選考委員会の厳正なる審議の結果、高血圧・内分泌内科の山下兼先生が「心不全における副腎β3アドレナリン受容体を介した新たなアルドステロン産生機序」という演題で、5名の受賞者の一人に選ばれました。授賞式は佐藤記念館で開催された懇親会の席上で執り行われました。今年は例年より多い111名もの参加者に恵まれて盛況でした。これは大会長真利に思えます。来年は北海道小樽市を会場に札幌医科大学病理学第一講座の高橋俊彦教授が大会長を務められることが決まっております。この記事をお読みになっている方々の中で、興味を覚える方がおられましたら、学会URL <http://bssr.jp/> をご覧いただければ幸いです。



- 東京女子医科大学学園祭開催
- 東医療センター防災訓練実施報告
- 研究の紹介（医学教育学）
- 研究の紹介（病理診断科）

発行年月日 — 平成 29 年 12 月 22 日（金）
 発行 — 学校法人 東京女子医科大学
 〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1
 発行責任者 — 吉岡 俊正
 編集 — 広報委員会
 連絡先 — 広報室 電話 3353-8112 内線 41371 ~ 41372